

事後評価結果（平成24年度）

担当課：東北地方整備局 道路計画第一課

担当課長名：隅藏 雄一郎

事業名	一般国道13号 <small>おおまかり</small> 大曲バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起点	自：秋田県大仙市和合 至：秋田県大仙市花館			延長	7.2km

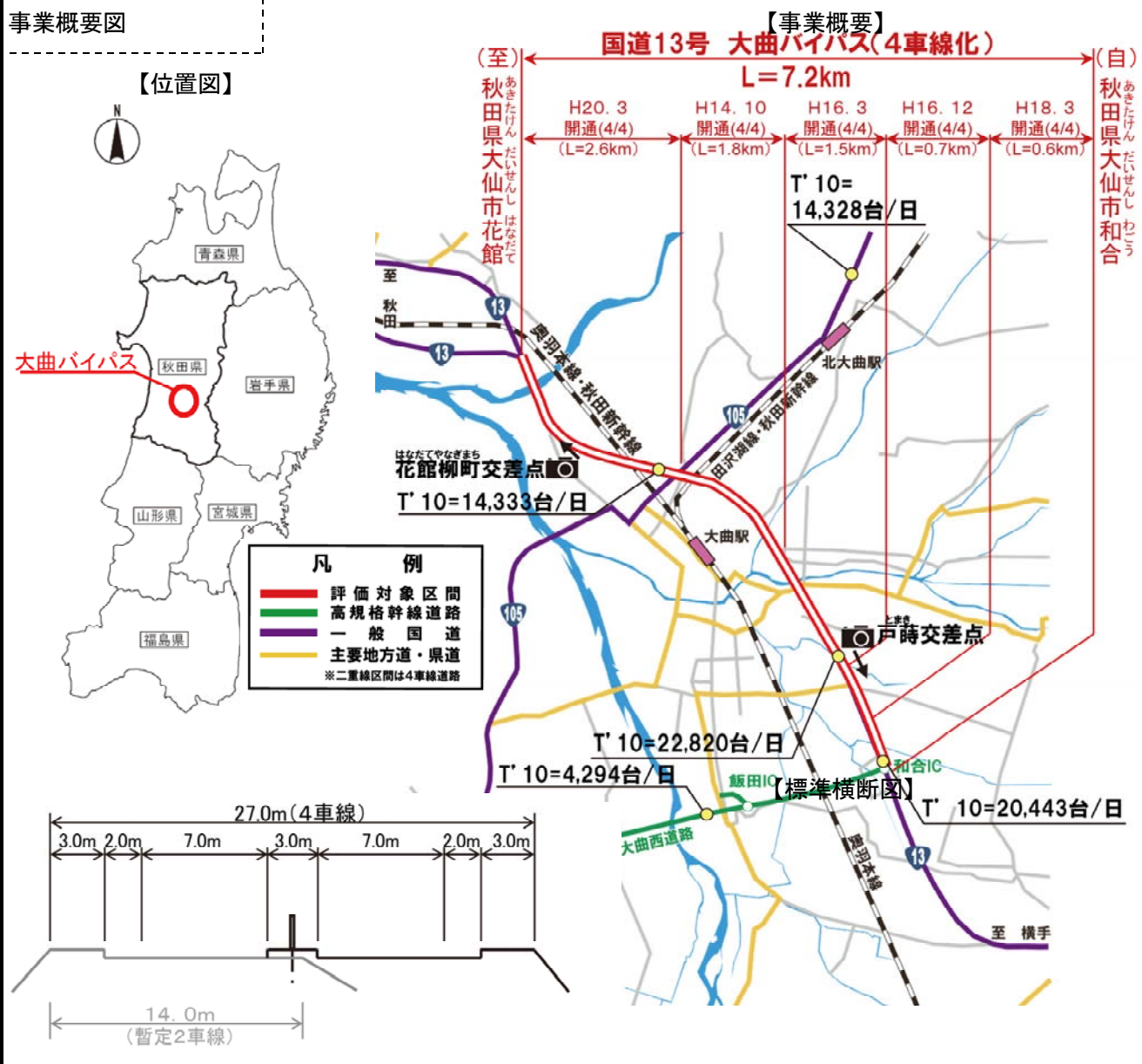
事業概要

一般国道13号は、福島県福島市から秋田県秋田市に至る延長約377kmの主要な幹線道路である。大曲バイパスは、大仙市和合から同市花館に至る延長7.2kmの4車線道路であり、平成19年度に全線完成供用している。

事業の目的・必要性

大曲バイパスは、大仙市（旧大曲市）周辺の国道13号の交通混雑の緩和、安全な交通の確保及び地域活性化を目的とした事業である。

事業概要図



事業の効果等	事業期間	事業化年度	平成11年度	用地着手	平成13年度	供用年	(当初) - / -	変動	- 倍	
		都市計画決定	平成9年度	工事着手	平成11年度	(暫定/完成)	(実績) - / H19			
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値)	- / - 億円	実績 (暫定/完成)	(名目値)	- / 137億円	(実績)	- / 147億円	変動
交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)		- / -	実績 (暫定/完成)		(H22)	- / 22,820台/日	変動	- %	
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)			22.3km/h	→	37.4km/h	交通事故減少 (供用前現道→当該路線)	48件/年 (H13)	→	25件/年 (H20)	
費用対効果 分析結果 (事後)	B / C		3.7	総費用	210億円	総便益	778億円	基準年		
事業遅延によるコスト増	費用増加額		- 億円	事業費	167億円	走行時間短縮便益	762億円	平成24年		
				維持管理費	43億円	走行経費減少便益	10億円			
				便益減少額	- 億円	交通事故減少便益	6.5億円			
事業遅延の理由										
-										
客観的評価指標に対応する事後評価項目										
1) 円滑なモビリティの確保										
・新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス性が見込まれる。										
2) 都市の再生										
・DID区域内の都市計画道路であり、市街地の都市計画道路網密度が向上。										
他10項目について効果の発現がみられる										
その他評価すべきと判断した項目										
・特になし										
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目									
	・環境影響評価対象外事業である。									
	その他評価すべきと判断した項目									
	・特になし									
事業を巡る社会経済情勢等の変化										
・道路の整備状況										
H13.10 刈和野バイパス 供用										
H18.10 大曲西道路 暫定供用										
H22.11 神宮寺バイパス部分供用(大仙市花館～大仙市北檜岡字高花)										
・その他										
H17.3 大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の市町村合併により、大仙市が誕生										
H23.3 東日本大震災発生										
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性										
・事業当初の目的に対し効果を発現しており、更なる事後評価及び改善措置の必要はないと考える。										
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性										
・特になし										
特記事項										
・特になし										

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。